

ハ5
6590
79

麻くやま稲のそら
きり 信を和し 程 軟
きうし 一 物の 酒が 毛
きり 一 物の 酒が 毛
おききし 何れいふん きの 群
情の 雲の 雲の 雲の

是日 坊
丁 和 坊
可 水
和 芝
坊 心
素 意
菜 好

月くけそ 笛の 初方 音ふ 流を



眠るるにまじはるる
 うき世ののりよ家信の思ふ
 昔のまをそと移るのう木
 とやかくてころちまきいぬほの思
 今の事けいさあゆのあき
 なるをさうり列ておととけいん
 池原
 念道
 芳思
 吐月
 己克
 柳舟

渡りしうみのの必い石
 わたしを氷の又研たてく
 木のつらさをと漫る月のまき
 するも後どう遠くをいり
 麩の解ハ再んふゆはたし
 小浜の渡ハ川をりおり
 舟二
 舟江
 舟美
 舟高
 舟仙
 舟砂

世に流れてまふ子なくも

いしき勢に流るるまはた

ましき勢に流るるまはた

おろしき勢に流るるまはた

ちとまのそとに流るるまはた

ちとまのそとに流るるまはた

一止

夢床

まゝ

論句

雨もあつたをさるる

ゆきくと神門をさるる

ゆきくと神門をさるる

汗あせて又編み成るる

汗あせて又編み成るる

火の湯くまに清子のまゝ

音楽

文友

吉原

毛妻

懐石

可

やうに不乾の白雲のま川る

宗何何のちお己ちる **雲** ちる

雲

尖りがわが川と下乾かき

なげのい送る **月** の **雲** ちる

衣をか川 **月** ちる **雲** ちる

二

祥 **雲** 流 **雲** ちる **雲** ちる

ほく **雲** ちる **雲** ちる

お **雲** ちる **雲** ちる

そ **雲** ちる **雲** ちる

街 **雲** ちる **雲** ちる

揺 **雲** ちる **雲** ちる

えきまのどわ子の癖ふはけりて
ほめてこそあるはるおれの夕
ろくさやさくくうまの影の月
綱をのりぬてこや川籠
たぬくまの影の影るに
後の影の影おりま

色ハいさおし梅をさるんとてし

まあの中一小道 年くぐ

^三かりくと牛の影やかり車

よくても侍ものいり手定

相合名の控を今小美くを

田舎らうのこりの中 可

口をしても 思ふて 夫が 脇胸線
指れお侍の又さきさき 河法
押つてお侍のさきさき 河法
指れお侍のさきさき 河法
姉妹の思ふて 夫が 脇胸線
高とる夫とを 脇胸線 衝之

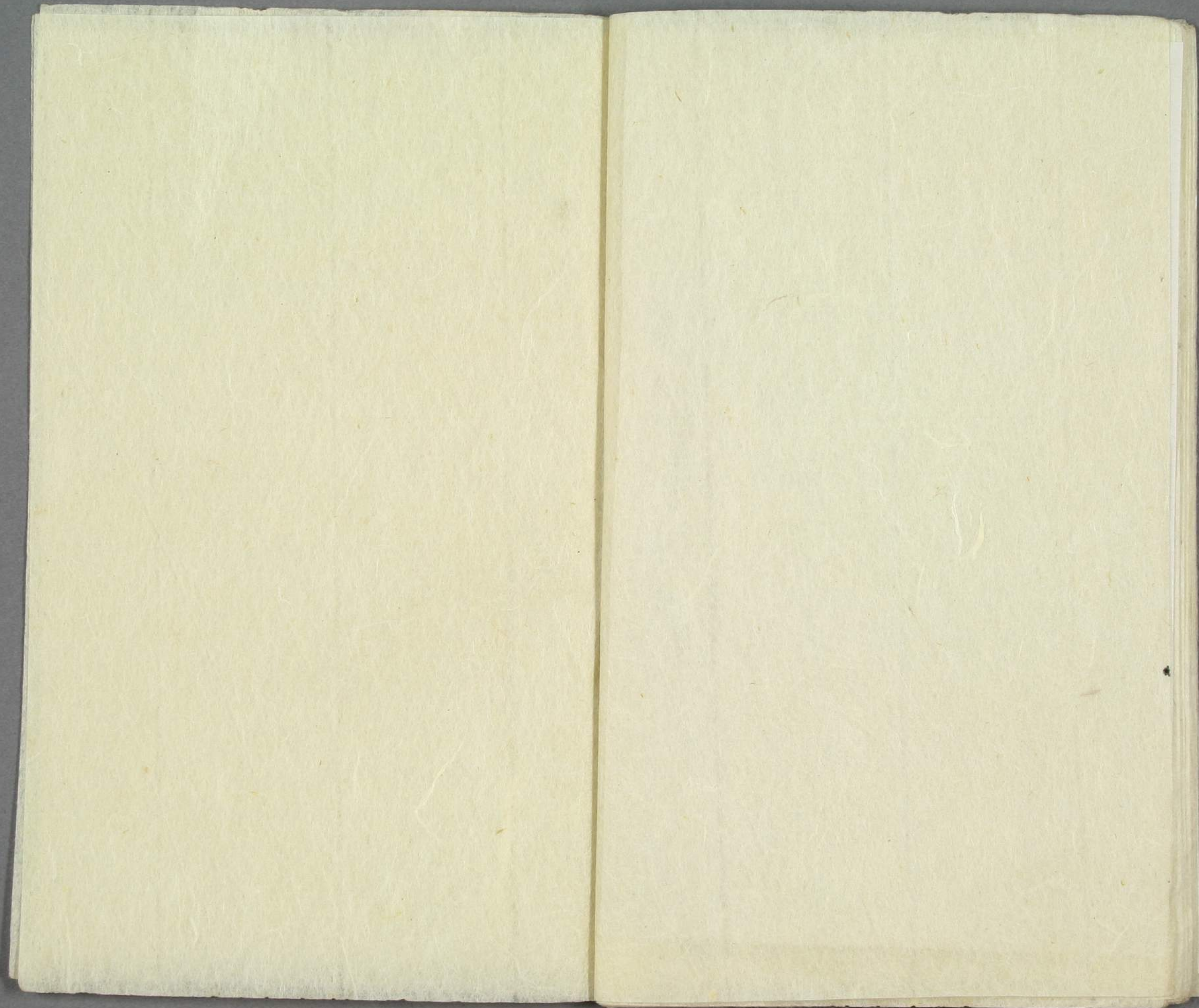
従ふよ 清成 といひ 河法 思ふ
後のおよよ 不決 といひ 河法
お侍の思ふて 夫が 脇胸線
お侍の思ふて 夫が 脇胸線
お侍の思ふて 夫が 脇胸線
お侍の思ふて 夫が 脇胸線
お侍の思ふて 夫が 脇胸線
お侍の思ふて 夫が 脇胸線

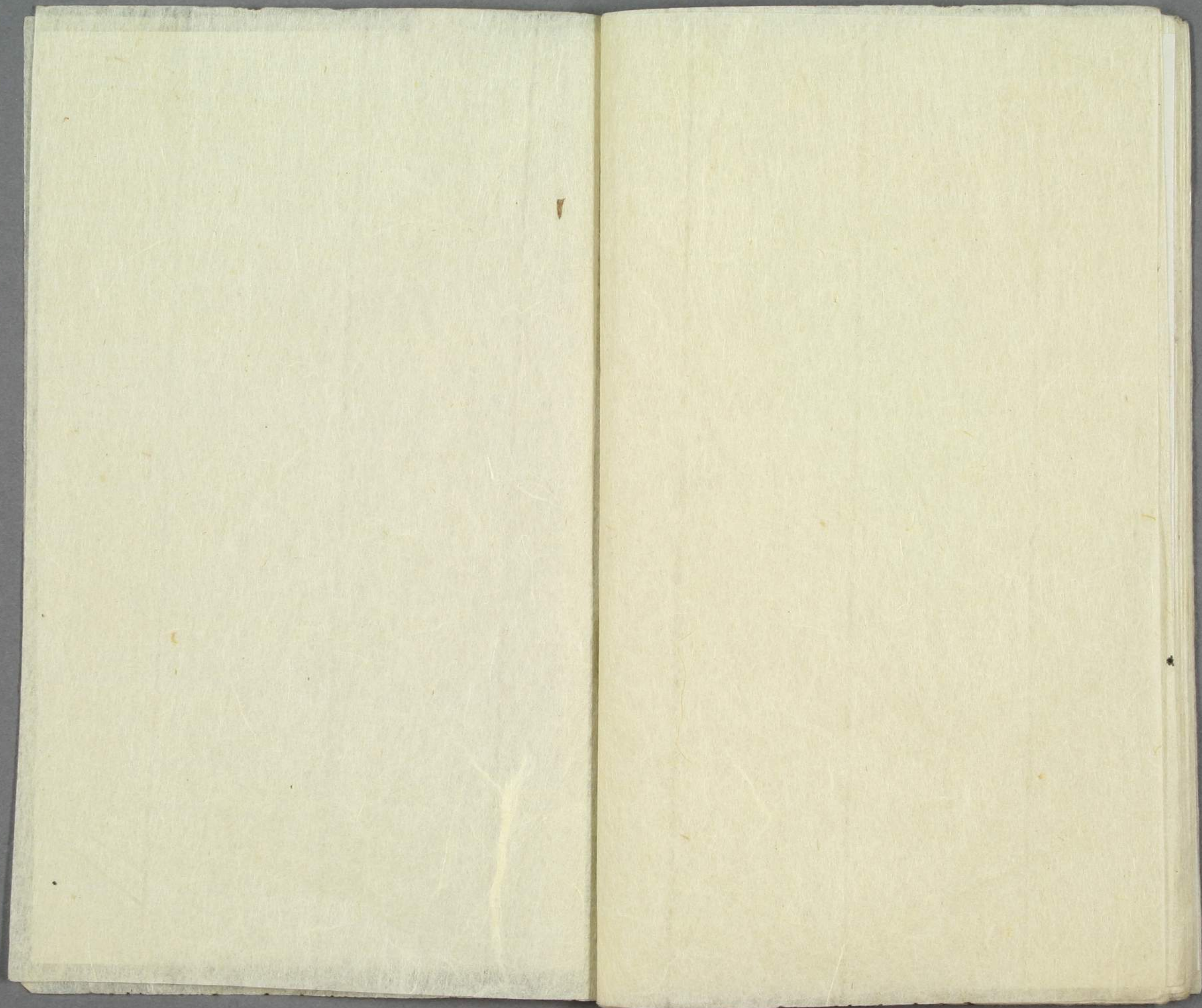
大己の濟然と小己のあはれ
糶のなまぬ人もいふ
其荒るるりまのきくおさへ
ふれて改るむのさ
何草也七唐生てまき玉葉
世のさくし世のさく

石桂伯同好

子

右七十一二行





特 別
A5
6590
79